

城北



平成 29 年 11 月 1 日 現在
 総世帯数 3,573
 総人口 7,705
 男 3,672
 女 4,033

城北人物 風土記

地方史の偉人 一志 茂樹 博士



一志博士は「地方史の研究は歩く研究だ、足を泣かせ汗を流さなければ出来るものではない」と生涯を地域に住む者の目線で郷土誌編纂と指導にあたっていましたが、昭和 55 年 6 月、県内各地で二十数年間実施していた現地講習の飯田会場で倒れました。懸案の長野県史が完成するまでは生き続けると執念をもってリハビリに励みましたが昭和 60 年 2 月沢村町の自宅で 92 才の生涯を閉じました。

出自と教職

明治 26 年に仁科神明宮（現大町市社）神官の家に生まれ一志博士は大町中学校から長野県師範学校に進み、卒業の後、北安・長野師範付属・上田・松本などで 33 年間（内校長 19 年）に亘り教育界に当たり、終戦の昭和 20 年、松本開智国

戦時下、教職にあつて信濃教育会の幹事として指導的な立場で多忙な傍ら、信濃史料の編纂や文化財保護の先駆けとなる県史跡名勝の調査委員に就任するなど地方史研究も継続されました。

地方史に取組む

戦後、教職を退くとともに長野県内の歴史研究者のリーダーとして『信濃史料』や『長野県史』などの編纂を行い、また文化財保護活動にあたりました。

自ら心血を注いで主宰した信濃史学会の機関誌『信濃』は県内外の歴史・考古・民俗・人文地理研究者への登竜門的な役割をはたしました。

更に地方史研究の同志を広げようと昭和 44 年から「地方史研究全国大会」を 7 回にわたって開催しました。

昭和 41 年には地方史学への功績が顕著だとして紫綬褒章を受賞しました。



教職と郷土史編纂

昭和 2 年郷里大町に赴任すると、小学校長職務の傍ら「北安曇郡郷土誌稿」の編纂に携わり本格的に歴史への道に踏み込むこととなりました。

業績の成果は夫人を始めご家族の篤い支えがあつてのことです。特に戦後混乱期の昭和 24 年から独力で編集・発行に当たった復刊第三次『信濃』では、就学世代の 7 人のお子様も含め、一家も挙げての協力があつたと伝えられています。そして認知症の方だけでなく、子どもからお年寄りまで誰もが参加できる城北らしい集いの場「カフェ・すいれん」を開設することになり、11 月 13 日に第 1 号の沢村店（沢村公民館）を開店させました。オープンには、地区の方々が大勢集まり、ボランティアスタッフが活動を見守っていた市の職員らとともに全員でクラッカーを鳴らし開店を祝いました。

次女敬子さんは「父は、やると決めると何があつても動じない強靱な意志を貫いていく人でした。飯田で倒れた後、県史への思いが強く、医者の方を頼ることを懸命に守り、リハビリに取り組んでいました」と語っていました。

この後参加者は、飲み物やお菓子のもてなしを受けたり、アコordeo デイオン伴奏で昔懐かしい歌を歌ったりして和やかなひと時を過ごしました。

参加者のおひとり「近くに皆の顔が見える場ができて嬉しい」と話していました。

「カフェ・すいれん」2 号店は 11 月 28 日に白金店（白金公民館）が開店します。



「カフェ・すいれん」開店



第18回
城北地区
ふれ愛まつり
9月23日(土)~24日(日)



第18回 城北地区ふれ愛まつりの思い出